

## 竹内泰彦さんの思い出

原野 昇

今から75年前の1949(昭和24)年に創設された広島日仏協会は、広島の2国間交流協会のなかで最も古い協会である。その創設者の一人中村義男氏は広島大学文学部フランス文学の教室主任であった。竹内泰彦さん(さんと呼ばせていただく)はその仏文教室の卒業生である。同教室の卒業生のなかには、竹内さんと同様に、恩師が創設した広島日仏協회를役員(理事、専務理事、副会長、監事)として支えた者が多くいる。大牟田稔、西岡政治、加藤宗登、野口脩、田中隆二、今中亘、阿壽賀三朗、白銀敏枝、玉田健二各氏である。そのなかでも竹内さんは最初から最も長く尽くされた。長いだけでなく、松田耕平、山本和郎、後藤文生、三山秀昭の歴代会長を支えながら、パリ祭、ボジョレの会をはじめとする協会の諸行事に際し事務局が処理しないといけない案件に対し、専務理事や事務局に対し常に的確な助言を与えられた。筆者が専務理事を務めた1992年から2007年までの15年間も、諸々の細かな事柄を全て竹内さんに相談しながら処理した。竹内さんは人の話をじっくり聞き、常に冷静に、穏やかな言葉で説得し、全体をまとめる人であった。

そのような竹内さんの功績に対し、フランス政府は1998年に芸術文化勲章 L'Ordre des Arts et des Lettres シュヴァリエ章を贈ってこれに応えたが、当協会にとっても非常に喜ばしいことであった。

エールフランス航空は、1970年1月に、大阪-パリ線の開設を記念して、各界の要人を招待してその就航を祝った。当協会では、松田耕平会長の名代として竹内さんがその記念飛行に参加された。ちょうど筆者は、フランス政府給費留学生として、当時パリ滞在中であったので、パリで竹内さんを迎え、竹内さんがあらかじめアポイントを取っておられたパリの有名な菓子屋さんと同行し、通訳を務めさせていただいたのも懐かしい思い出である。

周知のように、竹内さんは平安堂梅坪の社長として、広島県の菓子業界でも活躍されたが、特に2013年には広島県菓子工業組合理事長として、広島市で開催された第26回全国菓子大博覧会を大成功に導かれたのは特筆に値しよう。

【令和6年7月20日(土)逝去】

(『広島日仏協会報』52号、1970年5月、同143号、1998年12月参照)

広島日仏協会副会長



勲章授与式：ナウム大阪-神戸総領事から叙勲、乾杯の言頭をとられるありし日の松田耕平元会長と竹内氏